



メタモルフォーゼ

HEPPOKODOU
PRESENTS

FOR ADULT ONLY



MATERIAL HANDLING

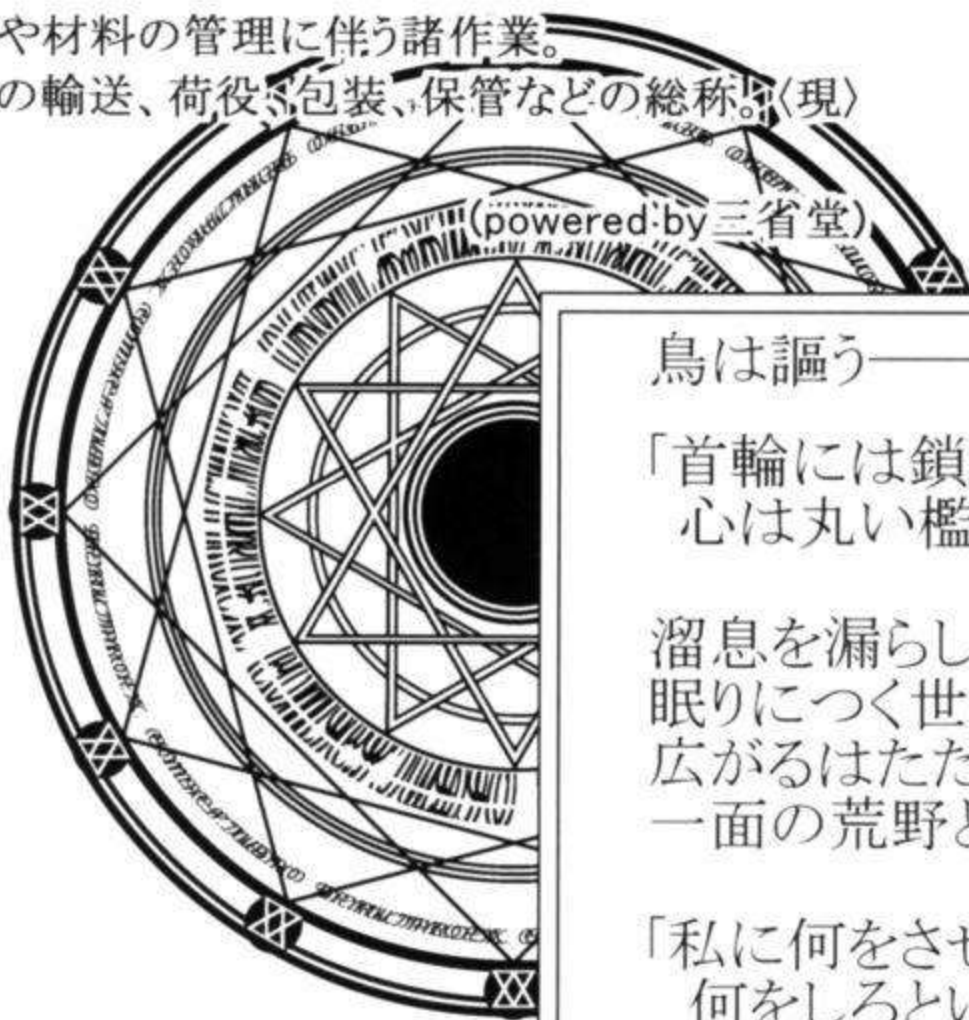
Vol.3

CONTENTS

イラスト	3
MATERIAL HANDLING	5
後書き	29

マテリアル-ハンドリング [material handling]

原料や材料の管理に伴う諸作業。
物品の輸送、荷役、包装、保管などの総称。(現)



鳥は謳う——

「首輪には鎖。手首にも鎖。
心は丸い檻の中」

溜息を漏らしながら
眠りにつく世界を見渡せば
広がるはただ
一面の荒野と色褪せた銀世界

「私に何をさせたいの？
何をしろというの？」

四方を囲む壁よりも、
自由を阻む鎖よりも、
胸元で光るマテリアが心を縛る

「こんなの——私じゃない！」

虚空へ——叫びは響く
——切なげな喘ぎの残滓を残して



あーあー

びん

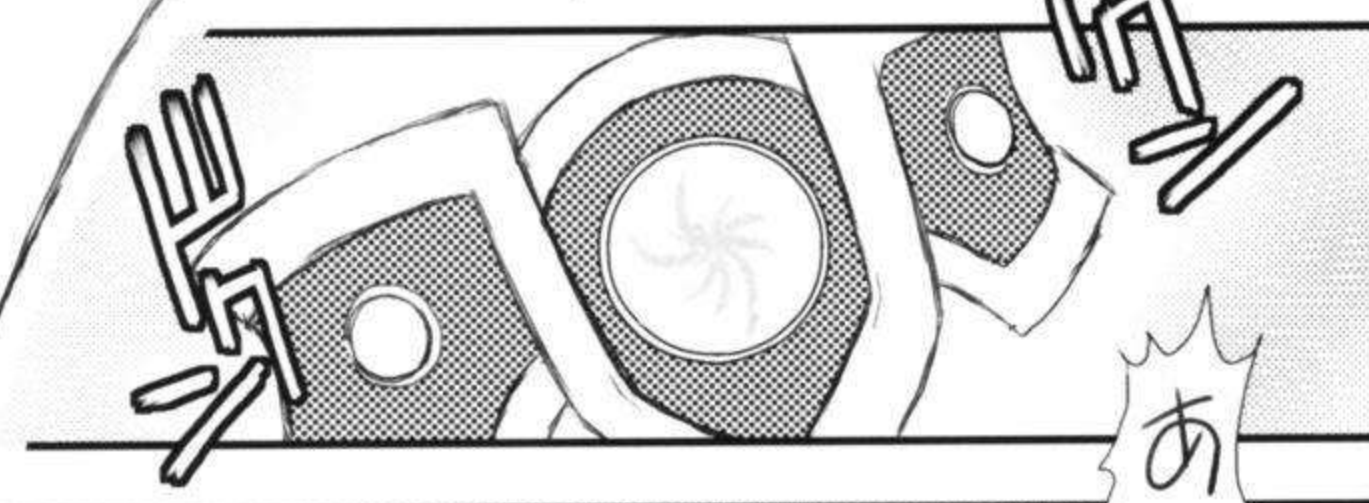
うあーうあー

うあーうあー

びん

うあーうあー

うあーうあー



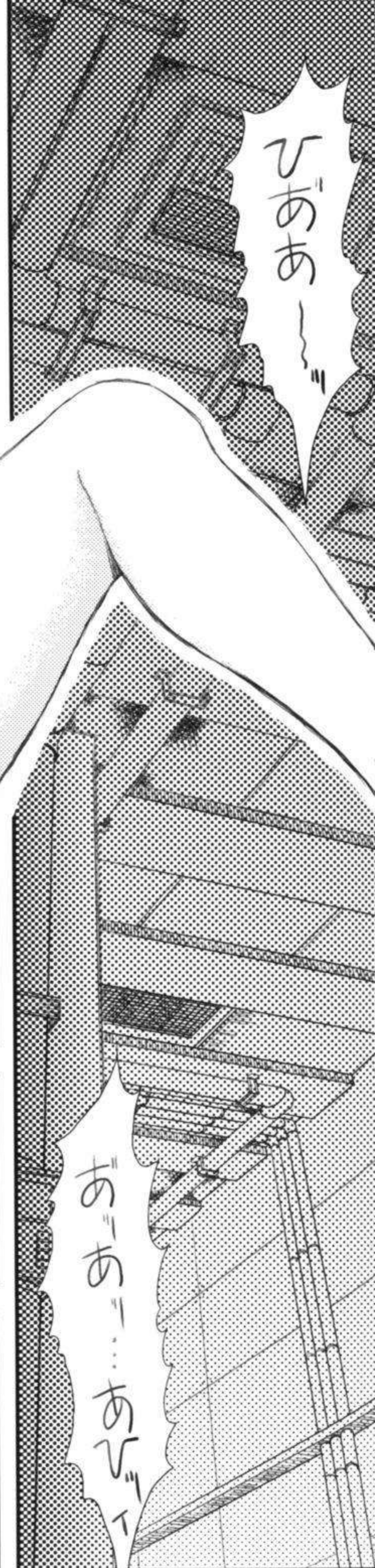
あーあーあー

うあーうあー

うあーうあー



あー



うあーうあー

あーあーあー



アッ
アッ
アッ
アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ
アッ
アッ

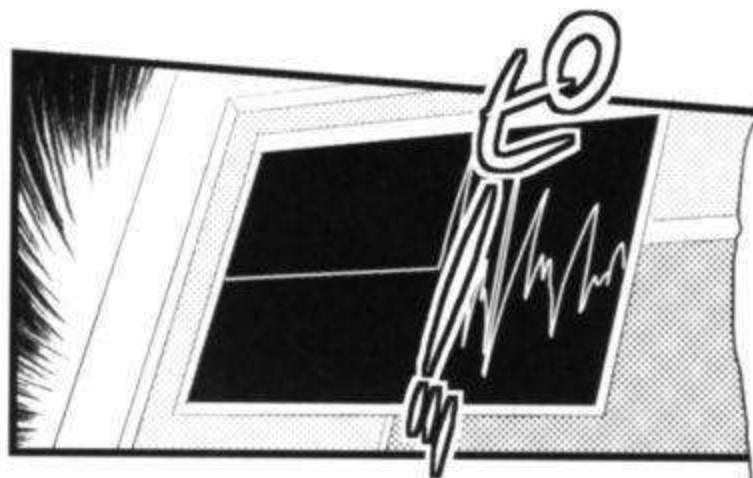
アッ
アッ
アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ
アッ
アッ





8

被検体——死亡、しました……



魔晄が必要です……
もっと——大量の……

やはり——





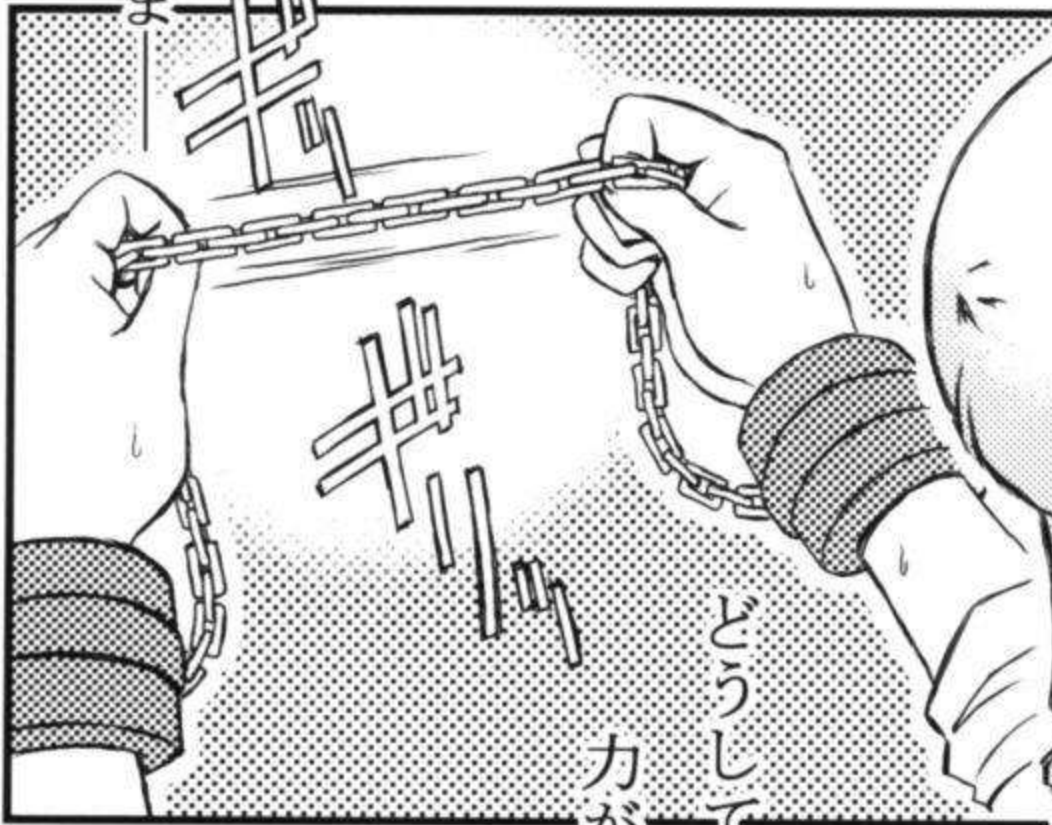


あの後

私は

この部屋に
寝かされていた。

この忌々しい鎖につながれたまま



どうしても

力が出ない……



☆
切れないなんて……
こんな鎖で



はあー

はあー

軀が疼いている

こんなにも……

熱が冷めてくれない

はあー

下がらない



いっ

……

こんなッ……

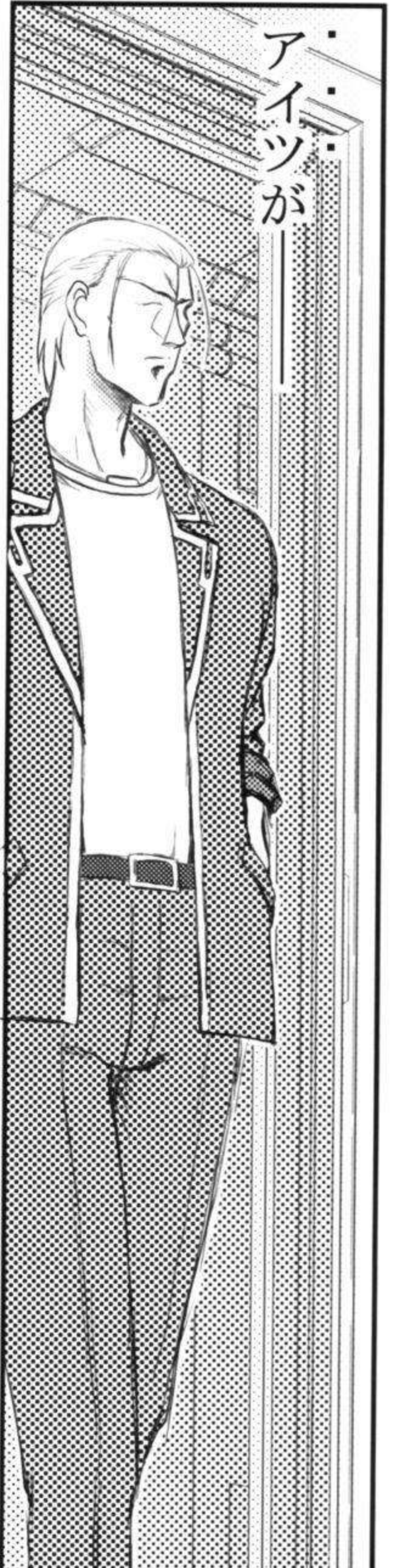


いっ

とっ



来た

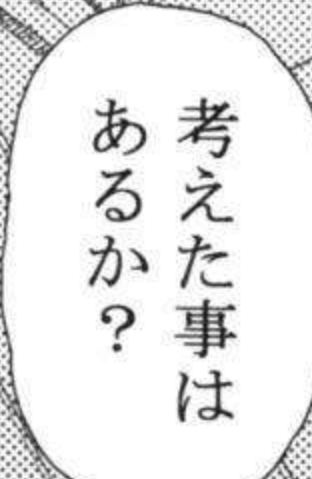


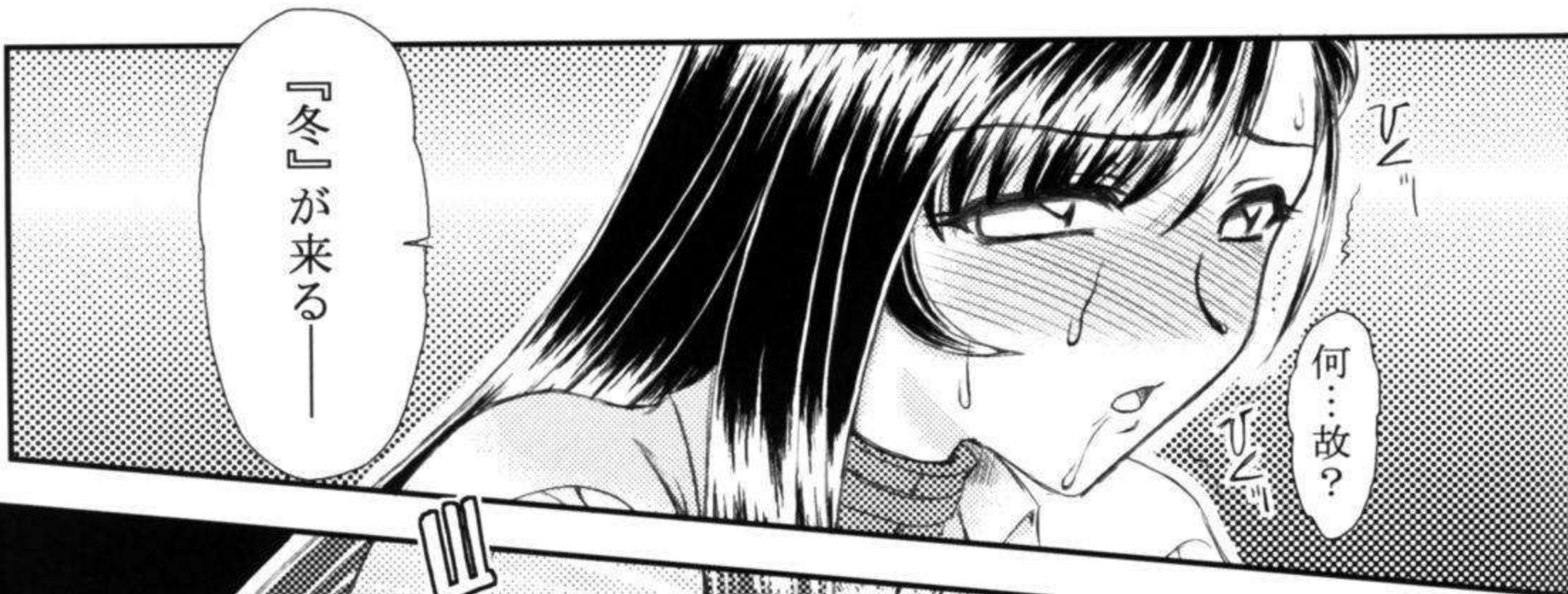
アイツが



えッ?







『冬』が来る――

何…故？



気付いているだろう

この星の休眠と

クワンクワン
クワンクワン



ひあッ!?

クワンクワンクワンクワン

あーッ!!



ホニ

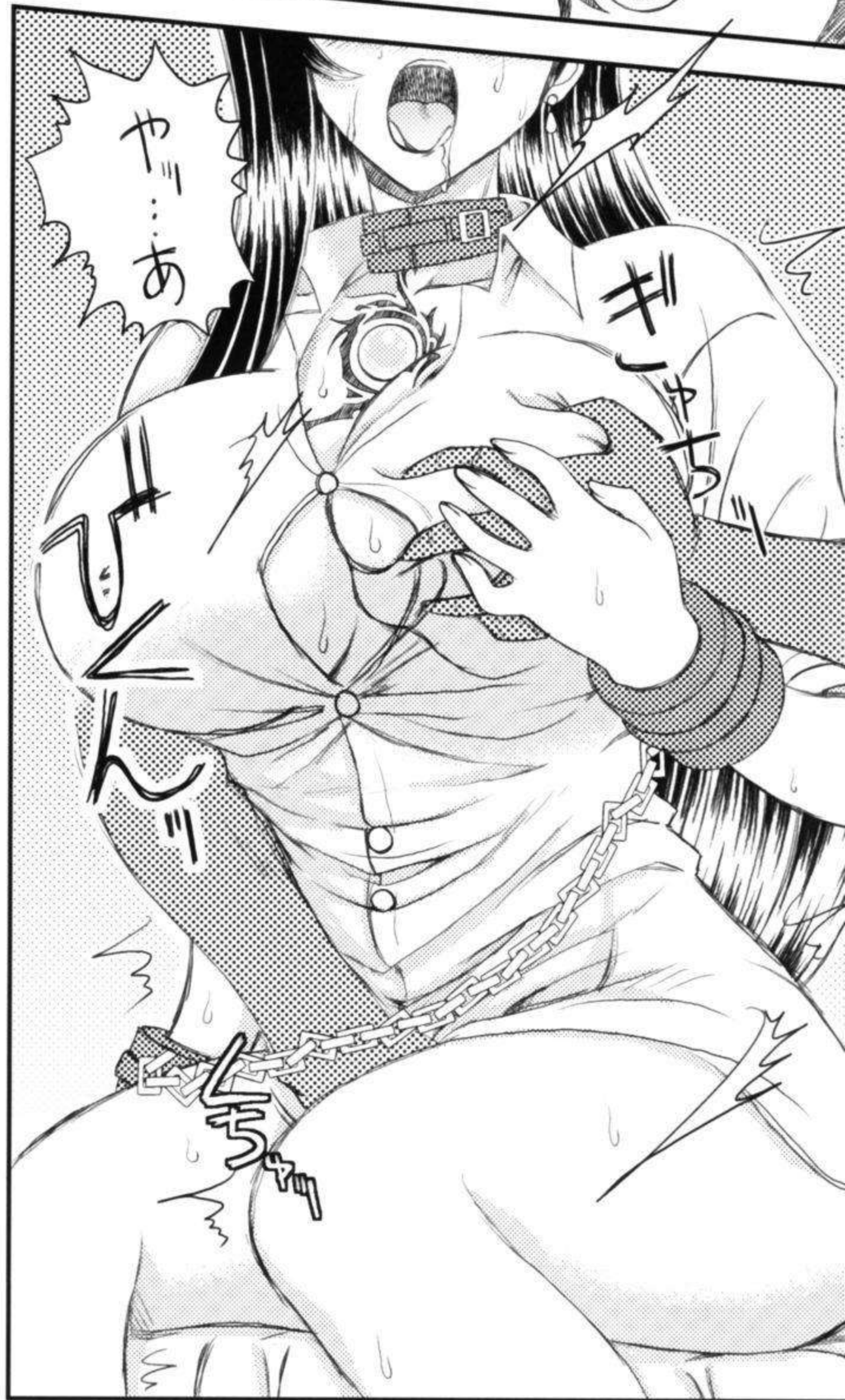


冬の訪れのことを――

わ、私には
関係な……!!

ちよつと
馬鹿ッ

どこ
触って…ッ!



古代種は、この『冬』を

あーん

あ…あ

冬眠すること
乗り越えたのだそうだ

あ♡



触るな!!!

触んなぞ!!!

だめだめ!!!

はあああ!!!

魔晄は光を失い—
古代種は滅び—

ひ…あ
幸か不幸か—
それでもなお
我々は生きてい



彼らの真似を
することは出来ない



ただ残念ながら—



我々には—
別の方法が必要だ

魔晄に代わる方法が—

そう——

このマテリアのような





生・み・出・す・た・め・の



22







あ…あ…
あ…

は…は…
は…は…



は…は…
は…は…



あ…

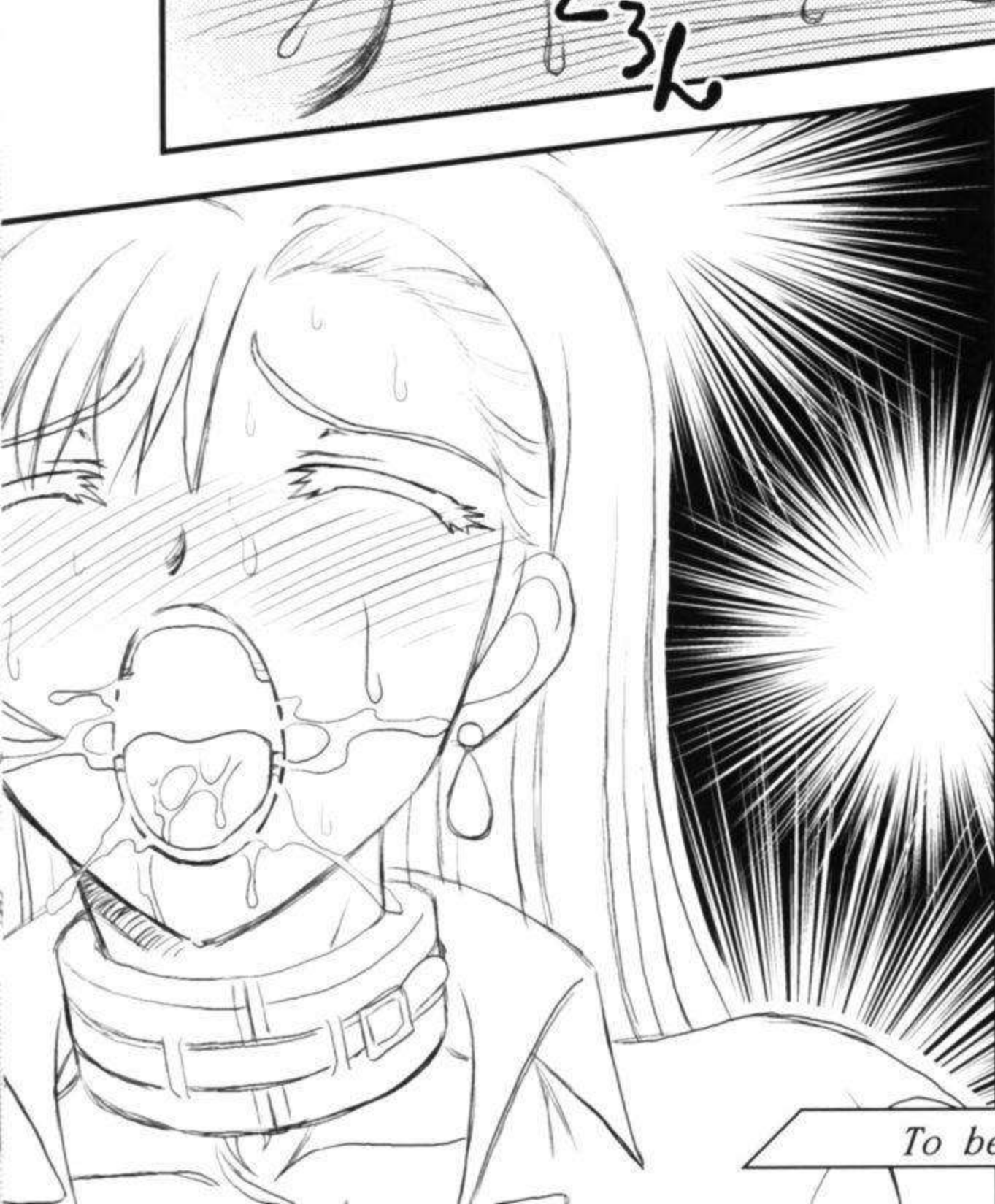


あ…あ…
は…は…

あ…あ…
は…は…







To be continued...

そもそも魔晄がどういったものなのか、それが知れた時点で誰かが思いを巡らすべきだった。

マテリアはどうしてあれほどの力を放つのか。
何故魔晄からあれほどの動力を得る事が出来るのか。

誰も考えなかった訳ではあるまい。
ただ目を閉ざしていただけだ。
力への盲目とはえてしてそうしたものだらう。

そもそもの原点がライフストリームといわれる星の生命にあるのであればそれが枯渇すれば、我々が立つ大地になにか起こりそうだから、くらいは子供でも考える。

今我々は、光を失ったマテリアを手に、
立ち枯れた木々と乾いた大地に立っている。
空から降る雪は、やがて大地を覆う。
突然の出来事に、我々はただ立ち尽くすばかりだ。

何もしなければ。

ある手段があったとする。
その手段が結果的に決め手となるかどうかはさておき、
その手段を行使出来るのであれば、
それを行使することは果たして人道的だろうか。

その手段が人道的でなかったとしたら。

無論、その手段を行使する。
問題を解決するために。

例えば、目の前に瀕死の人間がいるとして。
放っておくことは間違っているのだろうか。

別に間違えていない。
手を差し伸べることが正しいとか限らない。
しかし私は手を差し伸べるだらう。

それは私の前に横たわる問題であり——
問題を解決する欲求を、私は持っている。

——今。
私の手元には、マテリアがある。
ある経緯より手に入れた、特殊なマテリアだ。
このマテリアは、より強い魔晄があれば、その力を発揮することが出来る。
発揮されたその力こそ、道しるべたり得る。

より強い魔晄があれば。
より強い魔晄を有する者が、あれば。

……それを、探している。

◇あとかき◇

◆電SUKE

お買い上げ有難うございました。作画担当の電DUKEです。
へっぼこ堂の4冊目、3冊目のMATERIAL HANDLINGになります。
今回も遅れたり何だりで、印刷のサンライズ様に迷惑をかけてしまったり、
お昼をやきもきさせてしまったりしました。
サンライズ様にはお詫びと感謝を。
お昼には…今度晩飯ご馳走するから勘弁な(笑)
その分、力の入ったものになっているといいのですが。

Vol. 4は出来るだけ早い内に完成させたいと思っています。
その時もまた手に取っていただければ幸いです。

◆お昼

夏です。
じたばたしているうちに4冊目をお届けします。
ご購入、大変有難うございました。
3冊目がいまいちだったので、かなりがっかりしたので、
今回は頑張ったつもりです(結構手伝いましたw)
ストーリーも進んでいるので、個人的には嬉しいです。
まあでも、ストーリーなんてないようなものなので、
エロを楽しんで頂ければと思いますw
本当はvol3、vol4で1冊のつもりだったんですが……(苦笑)
次回はvol4で、またお会いしましょう～～。

毎度書いている事ですが……

原作担当のお昼、作画担当の電SUKE、
共に「FFVIIAC」はプレイしておりません。
はい、そうです、今もなお未プレイです。

と言うか、ACのティファは
好みじゃありませんので。ええ。
なーんか違うんだよなあ、
あのティファは…

ですからこの話は、
あくまでFFVII本編からの続き、
という事になります。

また、この話の前日譚を
HP「へっぼこ堂」にアップしています。
お昼の書いたSSです。
興味のある方は、どうかそちらも
読んでみて下さい。

…と言うか、さすがにそろそろ
続きを書いた方が良くないか？お昼…
俺が言えた義理ではないが…

今回入らなかつたページの一部
Vol.4に2件用予定

◇奥付◇

「MATERIAL HANDLING」 Vol.3

発行者：へっぽこ堂

発行日：2008年8月17日

印刷所：サンライズ パブリケーション 様

E-mail：ohiru100@infoseek.jp

HP：http://www115.sakura.ne.jp/~heppokodou/

18歳未満の購入・閲覧を禁止します。

無断複製・無断転載・無断配布を禁止します。



HEPPOKODOU PRESENTS
FOR ADULT ONLY

[HTTP://WWW115.SAKURA.NE.JP/~HEPPOKODOU/](http://www115.sakura.ne.jp/~heppokodou/)